

歯周病のリスク管理特論

Advanced Course of Periodontal Risk Management

キーワード

- ① 歯周病学
- ② リスク管理
- ③ 食事、栄養
- ④ 禁煙
- ⑤ 認知行動療法

授業概要

歯周病は、口腔内環境、衛生状態のみならず栄養摂取状態および喫煙状況など、生活習慣にも大きく左右される疾患であるといえる。そのため、歯周病を単なる炎症性疾患として捉えるのではなく、生活習慣病の1つと捉えて、患者アトランスをu 高める方法論を学ぶ必要があると考えられる。ここでは、認知行動療法に基づいた口腔清掃指導・支援法および食習慣、禁煙支援法に関する研究論文を題材にして内容の抄読および解説を行い、臨床の場において患者の生活習慣の改善をどのように促すか、その実践について考察する。

授業科目の学修目標

歯周病リスク管理に関わる基礎講義、臨床実習を通し身に着け育成してきた能力と知識をもとに、臨床課題を認識し、課題解決型の研究デザインを立案する。臨床課題に関わる研究報告や作業仮説等の研究背景を理解するとともに整理し、設定した研究の位置づけを明確化し考察する。

授業計画

- ① 歯周病と食習慣、栄養（特にオメガ3系脂肪酸）の関連について議論する。 15コマ 三辺正人・両角俊哉
- ② 歯周病と喫煙の関係と行動変容のアプローチに基づいた口腔清掃および禁煙指導と支援法について修得する。 15コマ 青山典生・両角俊哉

教科書および参考書

アンチエイジングの基礎と臨床 Medical View 社 2013年、糖尿病診療ハンドブック3. 中外医学社 2016、認知行動療法入門 1, 2 医学書院 2011年

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

共通科目、歯周病リスク診断学入門、歯周医学実習の履修内容を理解、整理し臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯周病と食栄養に関する現在の見解を理解して説明できる。
- ② 歯周病と喫煙、禁煙に関する現在の見解を理解して説明できる。また、歯周病療養指導についての認知行動療法について修得する。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	25%	50%	0%	25%	0%

評価の要点

- ・講義終了後、口頭試問により知識の理解度を判定する。5%×5回=25%
- ・レポートは、授業計画について課題を提出する。25%
- ・分野の研究報告会、大学院研究報告会において達成度を判定する。25%×2回=50%

理想的な達成レベルの目安

歯周病のリスク管理特論の理想的な達成レベルは75%以上とする。